

# 大学教育連携センター・サテライトオフィス 担当者会議

## 平成23年度

第1回 平成23年 4月22日(金)

第2回 平成23年 5月27日(金)



## 第1回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議

- 1 日 時 平成23年4月22日(金) 10:30~12:00
- 2 場 所 岡山理科大学 27号館 2階 セミナー室
- 3 参 加 者 センターおよび各オフィス  
代表者、コーディネーター、事務補佐員(事務担当)他
- 4 報 告 事 項
- ・センターおよび各オフィス担当者の自己紹介
  - ・各オフィスへのお願い 【資料1】
- 5 議 題 案
- (1) 遠隔教育の運営について 【資料2】
  - (2) 平成23年度補助金確定を受けて 【資料3】
  - (3) 大学連携と地域活性化シンポジウムについて 【資料4】
  - (4) 平成22年度連携取組事業評価報告書 【資料5】
  - (5) 最終報告書の企画について 【資料6】
  - (6) その他の事項について
    - ・次回の会議日程について  
日時：平成23年 月 日( )  
場所：

## 6 出席者一覧

大 学 名	職 名	氏 名	出 欠
岡山大学	大学院医歯薬学総合研究科教授	三 好 伸 一	出
	学務部 学務企画課 主査	野 曾 康 史	出
	コーディネーター	遠 山 和 大	出
	事務職員	小 林 祐 也	出
岡山商科大学	副学長	大 崎 紘 一	出
	産学官連携センター主任	中 村 裕	出
	コーディネーター	矢 延 里 織	出
	事務補佐員	長 内 路 子	出
中国学園大学	地域連携センター所長	飯 田 哲 司	出
	コーディネーター	桑 田 朋 美	出
	事務補佐員	永 井 智 子	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木 村 宏	出
	総合情報学部教授	竹 内 渉	欠
	学外連携推進室次長	金 子 典 正	出
	学外連携推進室	瀬 戸 徹 也	欠
	コーディネーター	北 村 光 一	出
	e-Learning 専門スタッフ	岡 戸 真理子	出
	事務補佐員	大 本 勝 子	出
	事務補佐員	本 田 絢 也	出

# 第1回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 議事録

日 時：平成23年4月22日（金）10：30～11：30

場 所：岡山理科大学 第27号館 2階 セミナー室

出席者：岡山大学 三好伸一、野曾康史、遠山和大、小林祐也

岡山商科大学 大崎紘一、中村 裕、矢延里織、長内路子

中国学園大学 飯田哲司、桑田朋美、永井智子

岡山理科大学 木村 宏、金子典正、北村光一、岡戸真理子、大本勝子、本田絢也

議 案：

## 1. センターおよび各オフィス担当者の自己紹介

出席者による自己紹介を行った。

## 2. 議事録前回議事要旨について

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

## 3. 各オフィスへのお願い

北村コーディネーターより、「資料1」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・前回のコーディネーター会議で提案したが、再度依頼しておきたい項目を資料にまとめたので、各オフィスへ検討してほしい。
- ・遠隔授業の受講者および教員に実施するアンケート調査のたたき台を作成したので、岡山大学オフィスにて検討してほしい。

## 4. 遠隔教育の運営について

北村コーディネーターより、「資料2」に基づき説明がなされた。

- ・大崎岡山商科大学オフィス室長より、岡山商科大学より配信している「経営学特殊講義 I」は現在のところ受講者は出ていない。今年度は昨年度より多くの科目を配信しているので、受講学生が分散したのかもしれない。各大学でそれぞれ科目を出してもらのではなく、共通科目を設定して実施することも検討する必要があるのでは。また、非常勤として他大学へ授業に行っている先生にテレビ会議システムを利用して授業をしてもらえるよう検討してみてもよいのでは。機器の整備および利用等についてはこの2年間でかなり進んだと思うので、今年度はそのような問題点について双方向コンテンツ委員会を中心に検討していきたいとの報告がなされた。
- ・遠山コーディネーターより、岡山大学より配信している「大学と社会」については、現在のところ倉敷芸術科学大学、山陽学園大学、ノートルダム清心女子大学より4名の受講者が出ている。まだ配信2回目で試行錯誤で実施している段階であるとの報告がなされた。
- ・木村センター長より、岡山理科大学では川崎医科大学の「個人・社会と医療考」に2名、倉敷芸術科学大学の「倉敷まちづくり基礎論」に1名、受講学生が出ている。「個人・社会と医療考」については第1回目の授業が受講できなかったため、授業を撮影したDVD

を送付してもらい、補講を行う形で対応するとの報告がなされた。

- ・4月14日に行われたテレビ会議システムの移転工事について報告がなされた。
- ・ライブ科目の受講者増加のため、広報活動の方法等について検討いただきたい。
- ・現時点でのVOD科目の受講者数について報告がなされた。
- ・木村センター長より、VOD科目の「音楽療法概論」および「食心理学」については受講者数に制限があったため、当大学の教務の方でまだ募集人数に達してない段階で募集打ち切りを行い、受講したくても受講できない学生が発生した。受講者数の制限がある科目についての対応方法を岡山大学オフィスの学士課程教育連携委員会等でご検討いただきたいとの意見がなされた。

#### 5. 平成23年度補助金確定を受けて

木村センター長より、「資料3」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・今年度は最終年度ということもあり、補助金の計画的な執行を行っていただきたい。

#### 6. 大学連携と地域活性化シンポジウムについて

大崎岡山商科大学オフィス室長より、「資料4」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・今年度は「大学連携シンポジウム」と「地域活性化シンポジウム」を共同開催するというので、「学生活動による大学連携と子どもを中心とした地域活性化」をテーマとし、第1分科会の「学生活動による大学連携」はセンターにて、第2分科会の「子どもを中心とした地域活性化」は地域活性化委員会にて所掌することになっている。
- ・会場は岡山商科大学学生会館の1階と2階を使用する。
- ・第2分科会は子供を中心としたテーマについて実施する。来週の26日に打ち合わせを行うが、8大学にブース出展していただき、相談コーナーや授乳室等も設ける予定である。
- ・木村センター長より、第1分科会は学生が地域活性化に果たす役割について発表してもらう予定である。基調講演については川崎医療福祉大学ボランティアセンターの副センター長である西本先生に依頼しているところである。その後休憩を挟み、岡山大学、倉敷芸術科学大学、川崎医療福祉大学、岡山理科大学の4大学の学生に10分程度の事例報告をしてもらう。その後にフロアディスカッションを行い、倉敷芸術科学大学の小山先生に進行をしていただくとの説明がなされた。

#### 7. 平成22年度連携取組事業評価報告書

北村コーディネーターより、「資料5」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・「資料5-1」は連携評価委員の方々のコメントをそのまま記載しているので、目を通していただきたい。
- ・「資料5-2」は平成21年度と平成22年度の評価の集計を記載している。正式な報告書については、センターで原案を作成して皆様にお送りするので確認いただきたい。皆様の了承が得られた後、代表者委員会へ提案する予定である。

#### 8. 最終報告書の企画について

北村コーディネーターより、「資料6」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・最終報告書の作成案として二通り企画した。「案1」については年度ごとに時系列で取り組みを章立てした形、「案2」については昨年度作成した中間報告書と同様な様式で

章立てした形としている。目を通していただき、次回の会議で検討したい。

- ・木村センター長より、科学 Try アングル岡山でも 500～600 ページの最終報告書を作成されており、作成にはかなりの作業量が予想されるので、早目に様式等を決定して執筆作業をお願いしたいとの説明がなされた。

## 9. その他の事項について

- ・金子学外連携推進室次長（岡山理科大学）より、岡山理科大学の広報活動事例について配布資料に基づき説明がなされ、広報活動への協力要請がなされた。
- ・北村コーディネーターより、岡山オルガノン通信について、今回はライブ型授業および VOD 型授業をメインにした記事を掲載しようと考えている。各オフィスで記載したい記事等があれば連絡願いたいとの依頼がなされた。
- ・木村センター長より、12 月 4 日（日）に予定している事業報告会については原案資料を配布しているが、科学 Try アングル岡山では最終報告会と連携評価委員会を同日に開催してその後に懇親会を行っていた。オルガノンでも、事業報告会または連携評価委員会の後に懇親会を行いたいと考えているので、それについてまたご意見をいただきたい。懇親会にはライブ型および VOD 型授業に協力いただいた先生方にも参加いただきたいと考えているとの説明がなされた。
- ・大崎岡山商科大学オフィス室長より、エコナイトについて東日本大震災に関連した別テーマも挙げていただければと連携校に依頼しており、活動テーマ案を提出いただければ、是非連携校共通で取り組んでいきたいと考えているとの説明がなされた。
- ・金子学外連携推進室次長（岡山理科大学）より、現在のところ岡山理科大学では東日本大震災に関して 2 つの取り組みを計画している。一つは、仙台出身の教員グループで現地の状況を理解するためのシンポジウムを今週末に開催する予定である。もう一つは、使用していないノートパソコンを NPO 法人等を通じて寄贈する活動を行っているとの報告がなされた。
- ・北村コーディネーターより、次回はコーディネーター会議ではなく大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議を開催したいとの意見がなされ、了承された。日程については、現在のところ5月24日（火）または27日（金）で検討しているが、日程についてはセンターよりメールにて調整を行う。次回は大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議を開催するかについても同時に連絡する。



## 第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議

1.日 時 平成23年5月27日(金) 15:30~17:00

2.場 所 岡山理科大学 27号館2階セミナー室

3.参加者 センター各オフィス担当者

### 4.報告事項

- ・将来構想委員会(センターより)
- ・大学連携による地域活性化シンポジウム(岡山商科大学およびセンターより)・・・資料1
  - ・各オフィスより事業報告(4月1日から5月31日まで)  
(岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学)

### 5.議題案

- (1)平成23年度岡山オルガノン事業報告会の持ち方(センターより)・・・資料2
- (2)岡山オルガノン最終報告書の企画・執筆依頼(センターより)・・・資料3
- (3)連携評価委員会、事業報告会後の懇親会の持ち方について(センターより)・・・資料4
- (4)エコナイトの開催(岡山商科大学より)・・・資料5
- その他
  - ・遠隔授業の受講者へのアピールについて・・・資料6  
(5月現在、受講者が0の大学への対応等)
  - ・次回の会議日程について  
日時:平成23年 6月 日( )  
場所:岡山理科大

## 6 出席者一覧

大学名	職名	氏名	出欠
岡山大学	大学院医歯薬学総合研究科教授	三好伸一	欠
	学務部 学務企画課 主査	野曾康史	出
	コーディネーター	遠山和大	出
	事務職員	小林祐也	欠
岡山商科大学	副学長	大崎紘一	欠
	産学官連携センター主任	中村裕	欠
	コーディネーター	矢延里織	出
	事務補佐員	長内路子	出
中国学園大学	地域連携センター所長	飯田哲司	出
	コーディネーター	桑田朋美	出
	事務補佐員	永井智子	出
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村宏	出
	総合情報学部教授	竹内渉	出
	学外連携推進室課長	御倉賀恵	出
	学外連携推進室	瀬戸徹也	出
	コーディネーター	北村光一	出
	e-Learning 専門スタッフ	岡戸真理子	出
	事務補佐員	大本勝子	出
	事務補佐員	本田絢也	出

## 第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議 議事録（案）

日 時：平成23年5月27日（金）15：30～17：00

場 所：岡山理科大学 第27号館 2階 セミナー室

出席者：岡山大学 野曾康史、遠山和大

岡山商科大学 矢延里織、長内路子

中国学園大学 飯田哲司、桑田朋美、永井智子

岡山理科大学 木村 宏、竹内 渉、御倉賀恵、瀬戸徹也、北村光一、岡戸真理子、  
大本勝子、本田絢也

議 案：

### 1. 前回議事録（案）の確認

前回議事録（案）の確認がなされ、原案どおり了承された。

### 2. 将来構想委員会

木村センター長より報告がなされた。

- ・大学コンソーシアム岡山代表者会議で、今後5年間、オルガノン加盟大学より会費とは別に事業推進費として費用負担いただいてオルガノン事業を継承していくことが了承された。その後、岡山大学より今後5年では長いので3年で検討してみてもとの意見をいただき、その方向でたたき台となる原案を作成して提案している段階である。
- ・遠隔教育を継続していくためのシステム運営費として300万円、遠隔教育を担当していく職員の人件費として300万円、計600万円を事業推進費の大枠として試算し、各大学の経費負担については「固定額（17万円）＋変動経費（学部学生数×@100円）」という金額で原案を提案した。

### 3. 大学連携による地域活性化シンポジウム

北村コーディネーターより、「資料1」に基づき報告がなされた。

- ・テーマは「学生活動による大学連携と子どもを中心とした地域活性化」、日時は6月26日（日）13:00～16:10、会場は岡山商科大学学生会館1階および2階で開催する。
- ・第1分科会について、メインテーマは「学生活動の取組報告『大学における活動と大学間連携』」、基調講演講師に川崎医療福祉大学の西本先生、休憩後、学生による事例報告とディスカッションを倉敷芸術科学大学の小山先生にコーディネーターをお願いし、行う。
- ・シンポジウム進行表および会場レイアウト（案）について説明がなされ、当日はオフィスの皆様にスタッフとして協力いただきたい、当日は11時に2号館1階談話室のスタッフ控室にお集まりいただきたいとの依頼がなされ、了承された。

矢延コーディネーターより、「資料1」に基づき報告がなされた。

- ・第2分科会について、メインテーマは「日ようび子ども大学」、学生会館1階で連携校8大学の先生方が集まって子どもが楽しめるイベントを実施する予定である。来場者数

は予想できないが、万が一会場に入り切れない場合、図書館で何かできないか検討中である。また、緊急時に即時の対応ができるよう、水分補給用飲料水の準備、看護職員の待機、授乳室およびおむつ交換室等の準備もする予定である。

- ・連携校案内資料は南入口から入ってすぐのところに設置する予定である。連携校案内資料およびスタンプラリーの景品として提供いただく品については 31 日に開催する地域活性化委員会に持ってきていただくよう連携校に依頼している。
- ・岡山理科大学と倉敷芸術科学大学については、学生会館の外（雨天の場合は図書館下のピロティ）でもブースを開く予定である。なお、各大学で必要な物品等については岡山商科大学オフィスで一括購入してお渡しする予定である。
- ・来場者の方には P-1～P-3 にとめていただき、関係者およびスタッフの方々は P-4 と P-5 にとめていただきたい。
- ・スタッフ控室は 2 号館 1 階談話室を、出演者控室は井尻記念館 1 階講師控室を準備している。
- ・第 2 分科会チラシの広報先リストについて、連携校、小学校・幼稚園・保育園、後援団体・メディア関係等に配布する。教育委員会ボックスは中学校ではなく保育園に配布した。プレスリリースについては、来週センター担当者と一緒に訪問する予定である。

#### 4. 各オフィスより事業報告

遠山コーディネーターより報告がなされた。

- ・前期の遠隔授業に関する単位互換の手続等を中心に活動しており、ライブ授業の受講学生数等についても集計・データ作成を行った。
- ・遠隔授業の効果および感想についてアンケートをとる必要があるのではとの意見があり、その内容の検討も行っていく予定である。
- ・10 月 30 日（日）に開催予定である共同 FD・SD 実施報告会についても検討を始めている段階である。

矢延コーディネーターより報告がなされた。

- ・4 月よりライブ授業が開始し、初日は業者がテレビ会議システム等の機械サポートに当たってくれ、特に問題はなくスムーズに配信されている。
- ・後期のライブ授業について、授業内容を記載して学生に理解してもらいやすいチラシの作成を検討中である。
- ・地域活性化委員会では、大学連携による地域活性化シンポジウムとエコナイト、ペガサスキャンドル工場見学、岡山市と連携したイベント実施等について準備を進めている。次回の委員会は 5 月 31 日（火）に開催する予定であり、その際にシンポジウムの大学グッズおよび連携校案内資料を持ってきていただくよう連携校へ依頼している。
- ・双方向コンテンツ委員会については、6 月に第 1 回を開催する予定である。

飯田中国学園大学オフィス代表より、配布資料に基づき、報告がなされた。

- ・配布資料には、今年度、講師チームで実施することが決定している出張講義について記載している。
- ・高校については現在のところ 17 の講義を予定しており、講義実施回数は昨年度を上回る

だろうと考えられる。特徴としては、1回の受講学生人数が増えており、年間を通して講義をお願いしたいとの依頼が増えている。

- ・岡山県教育庁より、高校の先生方に個別に指導をお願いしたいとの依頼があり、実際にその準備を進めている。
- ・社会人向けセミナーについては、現在のところ5つ計画している。
- ・大学については、現在のところ岡山理科大学で15回、その他単発の授業を各大学で実施する予定である。
- ・6月に予定しているワークショップだが、29日(水)または30日(木)で計画中である。今回は、学生の視点から見たキャリア形成講座について各大学の教務担当者等と意見交換できればと考えており、詳細については決まり次第案内する。昨年度は就職担当者が来られることが多かったが、今年度はキャリア教育担当者に広報していきたいと考えている。

#### 5. 平成23年度岡山オルガノン事業報告会の持ち方

北村コーディネーターより、「資料2」に基づき説明がなされた。

- ・テーマは「未来型『岡山オルガノン』の構築」(仮称)、開催日時は12月3日(土)の13時から16時、会場は理大ホールで検討中である。

#### 6. 岡山オルガノン最終報告書の企画・執筆依頼

北村コーディネーターより、「資料3」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・最終報告書は、昨年度作成した中間報告書をベースに章立てした内容にする予定である。
- ・センターでさらに詳細な企画案を作成し、各オフィスおよび連携校へ執筆依頼をさせていただき予定であるが、来年1月には完成できるような計画で進めていきたいのでオフィスの皆様にも協力をお願いしたい。

#### 7. 連携評価委員会、事業報告会後の懇親会の持ち方について

北村コーディネーターより、「資料4」に基づき説明がなされ、了承された。

- ・連携評価委員会または事業報告会の後に、事業の反省会および遠隔授業に協力いただいた先生方に対して感謝とお礼を込めて懇親会を開催してはどうかと検討している。現在のところ会費は個人負担で計画している。
- ・遠山コーディネーターより、連携評価委員会委員や遠隔授業の先生方からも会費を徴収するののかとの質問がなされ、木村センター長より、大学経費で負担できればその方々については無料ということもできるかもしれないが、当大学の学長とも相談しないと聞いていたとの回答がなされた。
- ・木村センター長より、10月30日(日)のFD・SD事業報告会で遠隔教育に関して議論する案も検討しており、その際に教材を提供された先生方にご参加いただき、その後に懇親会を開くという案もよいのではと考えているとの意見がなされた。
- ・飯田中国学園大学オフィス代表より、社会人基礎力養成講師チームや教材提供してくれた企業の方々をお招きする場合も大学経費で負担することになるのかとの質問があり、木村センター長より、どういう方々に対する懇親会を開催するかによって日程等も変わってくると思うので、センターでもう少し検討して提案させていただきとの回答がなさ

れた。

## 8. エコナイトの開催

矢延コーディネーターより、「資料5」に基づき報告がなされた。

- ・今年度のエコナイトのテーマは―“がんばろう日本”のための「エコ活動」―とし、岡山県、岡山市等行政団体とリンクして学生間の交流活動推進と地域への拡充を目指す。
- ・岡山県のエコパートナーシップおかやまと共催して「昼も夜もライトダウン 2011」キャンペーンを実施する予定で、現在、各大学で実施可能な節電活動期間を確認中である。
- ・「マイ・カー乗るまあ day」として、自動車通勤をしている教職員等に、できるだけ当日は車の利用を控えるよう呼びかける。
- ・ペガサスキャンドル訪問見学については、現在のところ倉敷芸術科学大学、中国学園大学、岡山理科大学、岡山商科大学の4大学が参加を希望しており、実施日については6月22日（水）を予定している。
- ・岡山理科大学のエコキャンドル作製講習会については、実施がまだ決定されていない。
- ・岡山市エコイベントと共催し、岡山駅東口広場で連携校の学生主体のイベントを実施する予定であり、現在、参加大学を確認している状況である。岡山商科大学ではキャンドルでの日本地図作成、うちわ配布などのイベントを検討している。
- ・蛍光ライト灯を400本ほど購入し、希望される大学のイベントで使用する予定である。
- ・各大学の実施イベントを岡山市のチラシに掲載していただくので、各大学のテーマ、内容、日時、場所等について確定したものを5月30日（月）までに連絡いただきたい。
- ・連携校へ、エコナイトイベントへの参加確認票を6月10日（金）締め切りでお願いしている。

## 9. その他の事項について

- ・北村コーディネーターより、遠隔授業の受講者へのアピールについて、受講学生が少ない大学については今後どのように対応していけばよいか意見をいただきたいとの発言がなされた。
- ・木村センター長より、VOD科目の受講学生が少なかったのは「音楽療法概論」および「食心理学」については受講者数に制限があったため、当大学の教務の方でまだ募集人数に達してない段階で募集打ち切りを行い、受講したくても受講できない学生が発生したことも原因の一つと考えられる。受講者数の制限がある科目についての対応方法を検討する必要がある。連携校に対しては、後期に受講生をふやしていただくよう再度お願いするとともに、センターとしても各大学訪問等も実施し、さらに積極的に学生への広報活動を行っていきたい。また、単位互換科目の受講単位数の制限等の問題については、平成24年度に向けた取り組みとして検討していきたいとの意見がなされた。
- ・北村コーディネーターより、最終報告書にも今後の課題として各大学の制度上の問題を分析して明記する必要があるが、各大学でも後期の受講生増に向けて努力いただきたいとの発言がなされた。
- ・木村センター長より、現在、岡山大学オフィスと検討している段階であるが、前期の受講生から授業評価アンケートを実施して最終報告書に組み込む必要があると考えており、

アンケートの実施方法および記載内容についてはもう少し検討が必要だが、早急に対応して実施したいとの意見がなされた。

- 北村コーディネーターより、オルガノン通信やホームページに記事を掲載する場合、センターへ申請書の提出をお願いしたいとの依頼がなされた。
- 木村センター長より、共同FD・SD実施報告会については早急に計画する必要があるので、次回のコーディネーター会議で詳細な検討を行いたいとの発言がなされた。
- 北村コーディネーターより、次回はコーディネーター会議の形で開催するが、テレビ会議システムを利用した会議も含めて検討し、日程についてはセンターで調整を行って連絡するとの発言がなされた。
- 木村センター長より、次回からの会議資料には現在決定しているオルガノン関連のイベント等のスケジュールを記載するとの発言がなされた。